

愛荘町 自治基本条例策定検討委員会 議事録	
会 議 名	第1回グループ協議（課題取り纏めBグループ）
日 時、場 所	平成21年 4月 4日 9:30～11:30 愛知川庁舎 2階第3会議室
出 席 者	富野暉一郎委員長、松浦敏雄委員、近藤麗子委員、前川恵委員、藤沢桂子委員、
	野々村直幸委員、山本
	役場：細江主監 他3名
記 録 者	山本

1. 議題

愛荘町を見渡した時、問題点、改善が必要と思われる項目のピックアップ。

2. 進行方法

上記議題について、特に制限はもうけず、教育について、文化についてという様な大まかなテーマで検討する方向性のみを決めて、各自、自由に検討を行い、その後発表、及び、個々の課題について意見交換を行った。

各自の意見は下記である。（言葉の端言については修正を加えている。）

3. 各委員の発表内容

3-1 藤沢委員

・子供会活動について

新しく始まったスポーツ少年団活動等におされ、昔からある字単位の活動を行う事が困難になっている。稲作畑作りなどのモデル的な活動も最近行われてはいるが、概して大人の価値観を子供に押し付けているのはなかろうか？

午前中は字単位の活動、午後はスポーツ少年団活動といった区分けも求められる。

また、スポーツ少年団の指導者には、子供に人と交わるルール、心の育成を教える資質が必要である。

・交通について

大型車の通行が激しく、また、町内には歩道の整備されていない道路が多い為、危険に感じられる。大型車の通行不可規制エリアの検討を求む。

・通信インフラについて

ケーブルテレビ網の設置を願いたい。

・町民意識について

旧愛知川町、秦荘町という意識を捨てて、新しい町の未来を見据える事の大切さを各機関に提案していく必要がある。

・地域力について

昔からの地域の各会の活動が低迷化している。女性の力を生かした改革的活用を。

3-2 近藤委員

・教育について

朝食抜き、あくび、途中で眠くなるなど、正しい生活習慣の定着が弱く感じられる。これは、家庭のしつ

けの問題であり、学習以前の問題である。

・子育てについて

不安や悩みを持った親は多いが、相談と銘打った会へはなかなか足が進まない。ふれあい広場等のものがあれば自然な形で足を運ぶと思う。

・安全について

公園はあっても遊びに行きにくいいためか、子供の声が聞こえない。

・世代間交流について

それぞれの世代では色々な活動があるが、世代を超えた交流が難しく、その様な場も少ない。

・地域力について

核家族化、個人主義の台頭で、町内、字内行事への関心が薄く、参加、協力する姿勢が乏しい。

・交通について

車社会と言え、高齢者に視点を当てて考えると不便さがある。

3-3 松浦委員

・交通について

高齢化社会を迎え、交通面の不便さが気になる。交通サービスの委員会にも参画し、各地の参考事例、資料等をもらったが、行政のバックアップがなければ不可能な様子が見受けられる。

バスによる住民サービスを行政がどこまで検討しているか知りたい。

・活力について

愛荘町が発足して3年経過したが、未だ旧町エゴといった様な感情的な面が残っている。同じ町民という意識が浸透するには10年はかかると思う。

近い将来、道州制が導入されると、今回の合併も一時的なものとなるが、今のままで良いかとも思う。したがって、個々の小さな問題は度外視して、行政が強引に引っ張るしかないかも。

・防災について

彦・愛・犬5商会で防災協定(案)を立ち上げ、行政も参画する事が決定している。緊急時の連絡網、物資の供給等を勘案し動き出しているが、最終的には行政のバックアップが必要である。

3-4 前川委員

・防災について

旧愛知川地区と、旧秦荘地区で、防災無線機器が違い、固定式の旧秦荘地区では、取り付けの不便さから、新規の取付を辞退する人もいる。統一が望ましい。

また、"防災の日"を制定し、防災に関する勉強会の開催などが必要である。

・文化、歴史、観光について

旧愛知川地区と、旧秦荘地区との連帯が不十分。

観光に関しての物産品(山芋)が、需要に対して供給が追いつけない。

旧中仙道を観光に活かす件については、隣接する町との横の連携が出来ており活動を行っている。

金剛輪寺に観光にくる人は多いが、時間がおして素通りされてしまう事がある。

・土地利用について

計画的な土地利用がされておらず、空き地は即アパートとなっている。野乃目では、従来の住民より

振興住宅の住民の方が多くなっている。文化ゾーン、商業ゾーンなどの制定が必要である。

・教育、食育について

学校給食では、主に地場産の食材を使った献立作りが望ましい。コスト減にもつながる。

3-5 野々村委員

・産業について

農業の大切さが理解されていない。安全な物を食べたいが、このままではさらに輸入が増え、10年後の農業経営が心配である。

・世代間交流について

若い人の流出が増え、各集落の行事が出来なくなっている。愛荘町に住みたいという魅力が無いのが原因。

字内でも、交流が少なくなっている。

・4月4日、役場内での意見交換時における職員からの意見

1. 保育園に入れず子供が増えている。受入れ人数の増大が必要。
2. 産婦人科が彦根、又は八日市に行かなくては無い。近くにほしい。
3. 老人ホームが足りない。
4. 遊具のある大規模公園がほしい。
5. 歩道のある道路が少ない。特に通学路が心配。
6. 公共交通機関が無い。
7. 子供が外で遊ばない。インドア者が多くなった。
8. 農道を利用する人が多いが、外灯(防犯灯)が無い。整備を望む。
9. 町営住宅を建設し、困っている人を助けてほしい。
10. 眠っている地域資源がある。
11. 河川敷のゴミ捨てが著しい。監視体制の充実が必要。
12. 他市町に誇れる、“愛荘町はこれ”というものが無い。
13. 若者の流出が続けば、各集落がいつれ崩壊する。
14. 各集落にある農業公園が十分に活用されていない。他の使い道の検討が必要。
15. エコ活動が今一で、将来が心配。エコ対策に取り組んで、ある一定の基準がクリアできたら集落単位で補助金を出せばよいのでは？
16. 若者が意見を述べたくても、述べる(意見を聞いてもらえる)場所が無い。施策に若者の意見が反映されていない。
17. 埋め立てにより田畑が減少し、緑が少なくなった。
18. 一致団結する力がなくなってきている。(反対する者が増えた。)
19. 観光スポットを示す案内看板等の道しるべが少ない。
20. 旧愛知川地区と、旧秦荘地区の一体化が出来ていない。
21. 花火大会を大きな夏祭りとしてはどうか？

3-6 山本

・教育について

公立学校と私立学校の格差が増大しており、親の所得水準で子供の受ける教育内容のレベルが決定されてしまう時代が到来しつつある。施設の維持、運営は行政が行い、教育業務は学校法人が行うと言う公私立学校制を検討する必要がある。

・地域連帯について

町内にとどまらず、他市町との共同計画も必要では？

・安全について

通学路の安全対策(防犯対策)の充実を図る。

・景観について

文化ゾーン、商業ゾーンなどの制定が必要である。

・産業について

栃木県のバイオマスエネルギーの先進町と姉妹提携を行っているのであるから、同じくバイオマス施策を推進すべき。休遊地の活用、農業振興、町内ブラジル人の就業確保、エネルギーの産出にと多義に効果がある。(ブラジルはバイオマスが進んでいる。)

・活力について

活力の出る、やる気を起こす制度づくりがまず必要。(経済特区のようなもの)

・行政について

町内資源(人)の活用が出来ていない。民間委託の推進。(TMC 構想)